

平成30年度

大田市学校教育の重点

大田市教育ビジョン基本理念

「わが里を誇り、大田と世界の未来を拓く」

生き抜く力を育てる

～三瓶山のように根を据え、高く～

- 多様で豊かな体験による確かな学力
- 自立、共生する心
- たくましく健やかな体



大田市教育委員会学校教育室

大田市教育ビジョン基本構想

基本方針

重点目標

基本理念

わが里を誇り、大田と世界の未来を拓く

生き抜く力を育てる

～三瓶山のように
根を据え、高く～

「あるもの」を活かす

～石見銀山や琴ヶ浜、
里、山、海
そして、ひと～

地域を支え、創る

～共に引き継ぐ
芋代官の気概～

多様で豊かな体験による確かな学力

体験をしっかり積み重ねることや、学校図書館での学びを通じて、主体的に学ぶ力や思考・判断・表現力を伸ばすとともに、知識や技能を定着させるための学力の保障に努める。

自立、共生する心

自らを大切にしつつ、いじめを許さず、自立、共生できる力を育てる。

たくましく健やかな体

体育・スポーツ、仲間との切磋琢磨を通してたくましさを培い、より良い生活習慣と食育で健やかな体を育てる。

「自然、歴史、伝統・文化」(レガシー)の継承

豊かな自然、歴史、伝統・文化など有形無形の遺産の尊さを自覚し、誇りをもって守り、継承する。

E S D (持続可能な社会の担い手を育む教育)

石見銀山学習、ふるさと教育を入り口として、地域と世界の未来を見据えつつ、自ら課題解決に取り組む学習に発展させる。

教育の魅力化

地域の特色を活かした教育環境・教育支援の充実を通じて教育の魅力を高め、「教育移住」など人の流れもつくる。

子育て(乳幼児期)のとらえなおし

乳幼児期の子育てを教育の一環として充実させるとともに、親学など社会教育による支援をおこなう。

学校・家庭・地域の協働

学校・公民館・図書館を核とし、まちづくりセンターや企業なども含めた地域連携により、家庭を支え、地域の教育力を高める。

担い手の育成

地域と世界に対する確かな志をもち、地域を愛し、支え、創る担い手を育てる。

目標を達成するための視点

保・幼・小・中と高校をつなぎ、社会教育機関などと連携

目標を達成するための基盤

平和と人権を尊重するユネスコの精神

【基本方針】生き抜く力を育てる ～三瓶山のように根を据え、高く～

情報化社会やグローバル社会を迎え、多様で変化の激しい時代の要請に応じていくためには、しっかりとした体験の積み重ねに支えられた、「生き抜く力」が必要となります。そこで、社会の変化に応じた知識や技能を習得し、これらを活用した課題解決力・思考力・判断力・表現力などを身につけ、自立し、自他をともに大切に思う心を育みます。

併せて、国際的な視野に立ち、地域や社会に貢献し実践できる人を育てたいと考えます。

【重点目標】

○多様で豊かな体験による確かな学力

学力を育成するためには、学力の根幹となる学習意欲を高め、学び方を習得し、生活に活かせる思考力・判断力・表現力など総合的な学力を高めていくことが大切です。

そこで、体験活動を積極的に取り入れ、その目的を明確にし、見学や調査、成果発表、人との交流、宿泊研修など多様な体験をカリキュラムの中にしっかりと位置づけます。さらに、社会教育と連携した体験活動にも取り組み、そのもつ力によって習得した知識や技能を一層豊かにし、学んだことが活用できる生きた学力を育みます。

併せて、これまでの学校図書館活用教育を継続・発展させ、言語活動の一層の充実を図っていきます。また、児童生徒に知識・理解、技能など基礎的な学力を身につけさせます。

このような確かな学力を児童生徒が獲得できるように学力の保障に努めていきます。

【重点目標】

○自立、共生する心

人の役に立った、人に感謝された、人から認められたという自己有用感を伴う体験は、自尊感情を育みます。自尊感情が高い状態であれば、困難な課題に対しても粘り強く取り組むことができます。また、自他を大切にしようとする気持ちも高まり、相手を思いやる言動につながります。

そこで、自尊感情を大切にした教育を進めることで、一人一人の社会的・職業的自立を促していくとともに、いじめを許さず、互いを尊重しながら共に生きようとする力を育てていきます。

【重点目標】

○たくましく健やかな体

学校における体育を通じて心身の成長を支え、その上で部活動や社会体育、地域のスポーツ活動など様々な場面において仲間との切磋琢磨を積み重ねることによって互いの能力を高める必要があります。

よりよい食習慣や生活習慣を確立することも心身の健康には欠かせないことから、保育所（園）、幼稚園、家庭での食育指導にしっかりと取り組みます。併せて、地産地消の立場からも地場食材を活かした安全・安心な学校給食の取り組みなどの食育を一層進めていきます。

また、児童生徒がテレビやゲーム、情報機器等のメディアを適切に利用し、かつ有効に活用するため、学校における学習や指導にとどまらず、PTAなど、関係機関等と連携して取り組んでいきます。

さらに、健康づくりや活力のあるまちづくり、誰もが共生できる社会の実現もスポーツの役割として位置付け、取組を進めていきます。

教育の充実に向けて

1 学力の育成

基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を培う。

○児童・生徒自らが参加する学習へと授業の質的改善を図る。

（言語活動の充実を図った学習，課題解決的な学習，学び合い等）

○授業のふり返りや明日の授業とリンクさせた家庭学習を考える。（家庭学習の充実）

○充実した保・幼・小・中・高の連携により，教育の円滑な接続に取り組む。

○新学習指導要領移行措置及び先行実施への対応（道徳，小学校英語，主権者教育等）

【大田市の児童生徒の強みと弱み】

平成 29 年度島根県学力調査（生活・学習に関する意識調査結果）より

◎：県平均ポイントを上回る項目が多い

—：県平均ポイントとほぼ同じ項目が多い

▲：県平均ポイントを下回る項目が多い

項 目 (設問数)	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2
自尊感情・自己有用感 (6) (例：自分にはよいところがある)	◎	—	◎	◎	▲	◎
学校生活 (4) (例：学校に行くのは楽しい)	◎	—	◎	◎	▲	◎
言語活動 (4) (例：授業で友達との間で話し合う活動をよく行う)	◎	—	◎	—	▲	◎
地域・社会 (4) (例：今住んでいる地域の行事に参加している)	—	—	◎	—	—	◎
教科に関する関心・意欲・態度 (19～23) (例：国語の勉強は好きだ)	◎	—	◎	◎	▲	—
学校での学習 (7) (例：授業で友達との間で話し合う活動をよく行う)	◎	—	◎	◎	▲	◎
家庭学習『時間』 (2) (例：学校の授業以外に普段どのくらい勉強するか)	—	▲	—	◎	▲	—
家庭学習『内容』 (4) (例：家で自分で計画を立てて勉強する)	—	▲	—	◎	▲	—

2 学校図書館活用教育

- 「乳幼児期の子育てを教育の一環として充実させる（大田市教育ビジョン）」という観点から、「第2次大田市子ども読書活動推進計画（平成28年3月）」とも関連させつつ、就学前の読書活動推進によって「本に親しむ」ための素地を作り、義務教育につなげていく。学校においては、就学前から義務教育終了時までの一貫した読書活動を意識して学校図書館活用教育を推進する。
- 平成29年度、児童生徒が学校図書館で借りた図書は、一人当たり小学校 103.4 冊、（前年比-0.5）中学校 26.8 冊（前年比-1.5）であり、どちらも前年度よりやや減少した。しかし、家庭における読書時間や公立図書館等の利用については全国平均を上回っている。これらは、学校図書館の整備、読書指導の充実、家読の取組、学校司書の資質向上等の成果であり、今後も継続した取組を進める。
- 「大田市情報活用能力指導體系表」をもとに各学校における学校図書館活用計画を再度見直し、育てたい力を明確にした授業を展開することによって、学力の育成につなげていく。

3 総合的な学習の時間

- 地域の特色を生かし地域と連携を図った様々な体験活動を行っている。体験を通して学んだことを価値づけ、意味づけをするために、友だちと話し合いながら自分の考えをまとめたり表現したりする主体的・対話的・探究的な学習活動を推進する。
探究のプロセス「課題設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」を常にイメージしながら児童・生徒主体の活動となるよう指導に努める。
- 地域の人や専門家のお話を聞いたり地域活動に参加したりするなど、地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験活動を学校・地域が一体となって推進する。
- 三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル等の体験型の施設を利用した魅力ある教育活動を推進する。

4 ESD

- これまでに各教科や総合的な学習の時間など様々な教育活動の中で取り扱われている「環境」「経済」「社会」「文化」等に関わる学習内容を ESD の視点から捉えなおし、持続可能な社会の構築につながる取組となるようにする。
- ふるさと教育、石見銀山学習等の様々な取組の中で、ESD の手法を取り入れていく。特に学習者自らが地域の魅力や課題を発見し、地域と未来を見据えて、その活用や解決に向けて取り組む課題解決型学習を積極的に推進する。
- 石見銀山学習では、新たに作成した副読本「石見銀山ことはじめ」を活用し、その歴史や世界遺産となった意義を学び、これからの石見銀山について考えることで、ESD の視点に立った持続可能な社会づくりにつながる取組を展開する。

5 人権・同和教育

大田市学校教育研究会人権・同和教育部会による校内研修実践集が、平成29年度で10冊目を数え、同和問題をはじめとするさまざまな人権課題に対する研修が継続的に行われ、共有しようとする取組がなされている。また、国や県の学力調査によると、児童・生徒の自尊感情は県や国の平均より高く、いじめを許さないとする児童・生徒の割合も高い。

- 教職員一人一人が自己を問い直し、差別の現実学び、人権尊重・差別撤廃を自らの生き方の基本に関わる課題として取り組む。
- 幼児・児童・生徒、教職員が自らの言動や人との関わりを振り返るなど、人権・同和教育の日常化を図ることで自己理解・他者理解を深めていく。
- 平成27年度発刊の「人権教育指導資料 第2集」（島根県教育委員会）をもとに「進路保障」に関する参画的な校内研修を行い、具体的な幼児・児童・生徒との関わりの場面をイメージしながら全教職員でともに考え、進路保障の一層の充実を図る。

6 生徒指導

各学校では教育課程の内外において一人一人の児童・生徒の健全な成長を促す取組が行われ、子どもたちは概ね落ち着いた学校生活を送っている。

- いじめ、不登校、問題行動、SNSやインターネットでのトラブル、過剰な電子メディア接触等の生徒指導上の諸課題について、「学校いじめ防止基本方針」や「不登校対策」にのっとり、発達の段階に応じた未然防止の取組を各学校（含PTA）と連携しながら積極的に行う。
- 様々な要因で支援を必要とする子どもたちが増加しており、ケースに応じた柔軟で適切な対応が求められている。保・幼・小・中学校の連携はもとより、関係機関等との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図る。
- 不登校や不登校傾向児童・生徒の学校（教室）以外の居場所（学習・活動・相談など）の確保、並びに学校復帰や社会的自立に向けた取組・支援をSC・SSWの活用や関係機関との連携により、組織的・計画的に行う。

7 特別支援教育

- 管理職や特別支援教育コーディネーターを中心とした校園内の支援体制のもとで、幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。
- 障がいのある幼児・児童・生徒が自らの能力を最大限に発揮し、社会的・職業的に自立していくことをめざす。そのためにキャリア教育の視点に立った教育課程を適切に編成・実施するとともに、幼児・児童・生徒の状況や適性に応じた進路指導に努める。
- 障がいの有無によって分け隔てることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現をめざし、理解教育を充実させる。
- 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等との連携を進め、早期からの一貫した支援に努める。
- 大田市相談支援チームや特別支援学校、医療機関等の専門機関との連携により、幼児・児童・生徒の状況や発達段階に応じた支援に努める。

8 健やかな体づくり

- 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高めるため、体育学習の充実強化を図るとともに、部活動も含め、教育活動全体を通して個人やチーム・集団としての全力を出し切る体験、成功や失敗体験、失敗を乗り越える体験などを大切にしたい取組を進める。
- 基本的な生活習慣確立に向け、テレビやゲーム、情報機器等のメディアの適切な利用に関する学習、心身の健康に関する学習等を充実させる。また、保護者や地域との連携を積極的に図る。
- 望ましい食生活や地元食材を活かした安心安全な学校給食の取組などについて学習する食育の充実を図る。

あすなろ教室（大田市適応指導教室）

あすなろ教室は、不登校のお子さんに体験活動、学習活動、教育相談等をとおして、心の居場所づくり、仲間づくりを支援する場所です。

お申し込み

本人・保護者・学校の先生でよく話し合いのうえ、あすなろ教室の様子を見学したり、あすなろ教室職員との相談を重ねたりしてから、本人の意思を尊重してお申し込みください。

心の居場所づくり

一人一人の気持ちや考えを大切にします。
主体的な活動を通して自立を支援します。

仲間づくり

集団活動の楽しさが味わえるように配慮し
集団生活への適応力を高めます。

体験活動

通常活動

- ・活動の内容や時間は本人と相談して決めます。
- ・活動時間は短くてもかまいません。
- ・お昼は給食があります。

各教科の学習、創作活動、調理実習、園芸、楽器演奏、
パソコン学習、レクリエーション、軽スポーツなど

特別活動

- ・お子さんの希望や状況を配慮して実施します。

自然体験（カヌー、雪遊び、スポーツなど）、宿泊体験、文化
芸術体験、図書館の利用、保育所や老人ホームへの訪問、遠足、
社会見学など

生活時程

9時 ～12時	学習支援
12時 ～13時	給食 昼休み
13時 ～15時	学習支援 教育相談 軽スポーツ

通室できる日

月曜日～金曜日
長期休業日を除く。
(水曜日は午前中)

対象者

小学生・中学生

教育相談

あなたの悩みや心配ごとをご相談ください。

対象者

幼児・小学生・中学生・高校生（あすなろ卒業生）などの本人、保護者、学校関係者

相談の内容

教育上、生活上のこと、いじめ、不登校のこと

お申し込み

まず、電話にてご予約ください。
来所できない方は電話だけの相談もお受けします。

電話受付

大田市教育研修センター

電話 0854-82-6333

(土・日・祝日を除く 9時～16時)

相談員・指導員が対応します。

・秘密は厳守します。・費用はいりません。

教育相談

電話相談・来所相談・
訪問相談

あすなろ教室

教育相談・通常活動・
特別活動

連携

保護者・学校・関係機関

学校復帰や社会的自立

大田市教育委員会の取り組み

学力の育成

○生き抜く力(大田市教育ビジョン基本方針)を育成するため、基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、「児童生徒の自立した学びを育む」視点に立った授業改善を通して、主体的に学ぶ力や思考力・判断力・表現力を培う等の学力育成に取り組みます。

- ・自らが参加する学習への質的改善(言語活動、課題解決的な学習、学び合い等)
- ・学校での学習の振り返りや明日の授業とリンクさせた家庭学習の充実
- ・充実した保・幼・小・中連携による、小1プロブレム、中1ギャップの解消への取り組み(「子どもの育ちと学びのめやす」の周知・活用)
- ・新学習指導要領移行措置への対応(特別の教科道徳、小学校英語の教科化、主権者教育)
- ・学力育成と指導要領総則・道徳科の説明に係る学校訪問の実施
- ・学習習慣サポーター配置事業。学力向上支援員配置事業。ICT活用研修の実施。

学校図書館活用教育

○学校訪問や研修等をおして、学校図書館活用教育を充実させていきます。

- ・学校訪問による学校図書館活用教育についての協議(すべての小・中学校)
- ・情報活用能力指導体系表、ブックリスト(「おすすめ図書」「授業活用」等)の活用推進
- ・各種研修会の実施(学校図書館活用教育研修、学校司書研修)
- ・学校司書等の配置

総合的な学習の時間

○地域の『ひと・もの・こと』を活用した体験活動を推進します。

- ・ふるさと教育の推進(ボランティア活動)
- ・石見銀山学習・囲碁学習の実施(世界遺産学習サミットへの参加)
- ・中学校の職場体験活動の推進への支援
- ・夢・志事業の実施
- ・赤ちゃんふれあい体験や体験型施設を利用した体験活動の実施

ESD

○ESDの基本的な考え方の対象となる「環境」「経済」「社会」「文化」に関わる内容は様々な教育活動の中で取り扱われています。その内容を「持続可能な社会の構築」の観点から捉えなおし、総合的に取り組みます。

- ・ESDの考えに沿った、課題解決型の学習法や参加型・体験型の指導法を取り入れていくための研修会実施
- ・ふるさと教育や石見銀山学習・囲碁学習について、ESDの視点に基づく見直し

人権・同和教育

○研修を充実させ、一人一人を大切に教育につなげていきます。

- ・各種研修会の実施(幼・小・中人権・同和教育主任等研修会、新規採用 及び 転入教職員対象 人権・同和教育研修)と校(園)内研修への協力
- ・大田市進路保障連絡協議会の実施
- ・外国にルーツをもつ保護者に関する調査の実施

生徒指導

○ケース会議への参加、関係機関との連携等、学校支援を行います。

- ・ケース会議等への参加(各学校における問題行動や不登校等への対応に協力)
- ・学校訪問による生徒指導の充実(児童生徒に係る情報交換、アンケートQ-Uの結果の分析)
- ・各種事業の実施(SSW活用、SC活用、心のかけ橋支援、学びいきいきサポート)
- ・生徒指導主任・主事等研修会の実施
- ・大田市適応指導委員会の開催

特別支援教育

○学校や関係機関と連携し、幼児児童生徒一人一人の健やかな発達を支えていきます。

- ・大田市特別支援教育連携協議会の開催
- ・大田市相談支援チームによる相談支援活動(にこにこ巡回訪問・中学校特別支援学級巡回訪問・申込みによる相談)
- ・特別支援教育支援員・特別支援学級介助員の配置および学校訪問
- ・特別支援教育に係る研修会(特別支援教育コーディネーター研修、特別支援教育支援員・特別支援学級介助員研修、特別支援学級教育課程研修、小学1年生の学級づくり授業づくり研修、通級による指導に係る研修、通級指導教室担当者会の開催等)
- ・特別支援教育に係る学校訪問指導(浜田教育事務所主管)
- ・「相談支援ファイル」や「個別の指導計画」等作成における支援
- ・大田市就学支援委員会の開催